

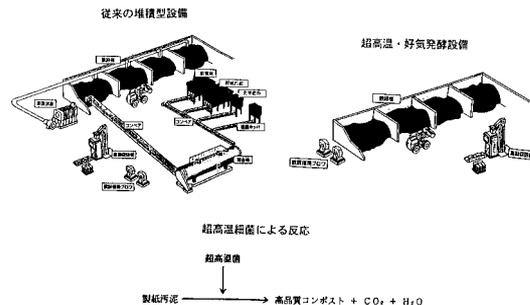
超高温好気発酵による製紙汚泥の肥料化実用技術の開発と研究

企業 / (株)山有

研究者 / 金澤晋二郎 (鹿児島大学農学部生物資源化学科食料生産化学講座)

超高温細菌によって製紙汚泥の資源化、即ち極めて安価で高速、かつ高品質な有機質肥料化技術の創出に成功した。本技術の創出により、従来極めて高い処理費が必要で、ダイオキシンなど環境汚染の発生が懸念される焼却により処理されていた製紙汚泥の資源化が実現された。

世界第2位の規模を誇る製紙国日本にとって、生産費の低減が図れ、かつ資源として活用できる本技術は、重要な意味をもつ。何故なら、加速度的に枯渇している森林資源の再生と成育促進のために必須な有機肥料として活用できるからである。従って、本技術は、製紙産業のゼロエミッションの創生、即ち「森林から生まれたものは森林に返す」を実現し、地球環境の修復に役立つなど、社会的貢献度が大きい。



超高温・好気発酵による製紙汚泥コンポスト化設備と発酵原理